

281

20

大學令改訂

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

始



大學令改良管見

京都松原榮

28/-20

大學令改良管見(大正二年十月稿) 同五年七月改刪)

京都 松原 榮

大正三年十月余長野縣伊那町に寓居の時、新に教育調査會の設あり先づ學制の改善を計り大學令も亦議定せられんとするを聞き勿卒此稿を草し携へて上京し、教育調査會々員の參考に供せんとせり然るに事故により果さず、時の文部大臣奥田義人殿に提出し退京せり爾後同調査會は屢々會議を重ねるも未だ決定を見ず、且委員の改善案なるものを見るに大學令第一條は依然舊令を改めず又遠からず確定せられんとするを聞き更らに舊稿を改刪し與有志の閱覽に供し以て其批評を乞はんと欲するなり



日本諸大學の大缺陷を論じ其改善を望む

大正
8.8.15
内交

余や愚鈍無學にして大學の缺陷といふ如き大問題を論ずるは頗る嗚呼なることなれども、近日大學令の改正あるを聞き平生の懷抱止みがた駄、好機を逸せんことを恐れ勿卒一文を草し諸大家の一覽を煩はさんとす、是敢て辯を好むに非ず、近來我邦大學改善の聲頗る高く之を論ずる學者大家少からず、然れども道德教育と人格教育とに説き及べるもの極めて稀なり、余を以て之を觀れば當今

大學に於ける缺陷の大なるもの、此兩教育の缺けたるに過ぎたるは無く而して此缺陷は實に我國將來の存亡に關するを信ずれば也

凡そ道德の人類に必要なる決して他の學術技藝に譲らず、且其蘊奥の深淵にして之を修得するの難き亦決して他の學術技藝に譲らず、然らば則ち其教育も亦決して他の學術技藝に比し輕忽にすべからざるなり、然るに大學令を觀るに其第一條に曰く「大學は學術技藝を教授し其蘊奥を攻究する所とす」と、即ち我國に於て維新以來道德教育は高等學校に止り、大學に於ては理論的方面は學術として教育せられざるに非ざるも、其區域狭く實行的方面は頗る輕忽に附せられたり、然るに余を以て觀れば其實行方面即道德的修養は理論的又批評的方面より殊に必要なるを覺ゆ、古人も學問の道他無し、唯其氣質を變化するにありとまで云へり、喻へば富士山のことを知らんとする人あり、地理書紀行地圖等により如何に詳細に之を知るも、身一度流汗淋漓其頂上に登攀し、其路の險夷草木の有無より四方展望の景色朝暾の海上に登る雄狀等を目撃したる者に比すれば其及ばざる遠きこと明なり、道德に於ても如何に古今東西大家の道德論垂教書を讀破し之を誦んじ、其異同優劣等を熟知すると雖自己歸趣尊信する所無く從て其行爲道德に協はざれば其効驗あることなし、之に反し孔子の吾十有五にして學に志し三十にして立つ四十にして惑はず五十にして天命を知る六十にして耳順ふ七十にして心の欲する所に從へども矩を踰えずといふ如きは、着々其凡質を變化し凡情の束縛を脱出し心親しく大聖の心域に達したること、彼の富士山の頂上に登りたるに等しきものにしてこゝに初めて實際的修養を成就したる大徳家といふべく、斯る人に對しては人々自ら敬慕の念を生じ其人

によりて世人の感化せらるゝこと廣く且深きを致さん、素より斯る心域に達するは容易のことに非ざれども人々其修養に勉むれば各自相應に進歩を得べし、徳育の効驗此に於て初めて現はれたりといふ可し、殊に社會の先導者たり中堅たる人に於て其効驗殊に著し其影響の及ぶところ大なれば也、然るに我邦今や道德の主義多岐にして人々懷疑の心深く信仰心薄く批評的方面に傾き一般に實行的方面を輕忽にせり、是恰も地理書の研究には力を盡すも自身の目的地も定めず足一步も家外に出でずして博く諸地のことを知れるを誇るに異ならず、是尙可なり、然るに其理論的方面すら諸學校及一般社會に於て輕忽にせらるるは實に歎すべきの極みにして、其弊や滔々として社會の各方面に現はれたること少く、意を此に致す者の深く認むる所にして其實例を擧ぐれば日も亦足らざる也、其原因は多々あるべしと雖今の大學に於て德育は其理論的方面すら一部に局られ一般學生に及ばず、其實行方面に於ては全部を通じて殆んど其教育なきは甚だ有力なる一原因と云はざるを得ず、見よ今の大學々生にして學問研究の爲め感興を起すものは比々皆然らん、道の爲め感興を起すもの其幾何ぞ、況んや道の爲め感慨涙を灑ぐものに至つては曉星のみならん、是多くは道德上更らに歸趣尊信する所無ければ也、道德上既に歸趣なければ或は品位陋劣に或は柔弱に或は暴粗に或は奢侈に或は淫靡に或は利祿に或は虚榮に傾き易きは識者を俟つて後に知らざるなり、若し社會の先覺者たり或は中堅たるものにして然りとすれば滔々たる人民の皆然るも亦毫も怪しむに足らざる也、是實に國家の爲め戰慄すべき大問題に非ずや

其缺點の第二は人格教育の忽にせられたること是なり、徳川時代に在つては我國に於て教育と云

へば頗る此方面に重きを置き前の徳育と結合して頗る功力を現はせり、然るに今の教育を觀るに主に意を智識的方面即學術技藝の教育に留め精神の養成に意を注ぐこと極めて薄し、即ち今の教育は多く學術技藝を注入すれば事足りりとなし、其人の個性を觀之に應じ其天稟の長所を助成し其短所を矯め以て各自に適應せる情動的氣力等に對する方面の教養甚だ缺乏せり、故に圓滿なる人格の養成は思ひも寄らず其結果學生の我儘を長ず、自儘我儘に教育されたる者と嚴格なる教育を受けたる者とは後來の發展行爲に於て大なる相違あり、大名或は富豪の子弟が多く世間に於て不成功なるは職として之による、大名藝といふも其藝術を學習する上に我儘に習ひ得たる藝術の嚴格に練習したる藝術と自ら異なる處あるを言ひたるなり、獅子は其兒を千仞の深谷に蹴落し其登り來りたるもののみを養育すると云ふに非ずや、現に相撲能樂禪道等に於ては其見込あるものは愈嚴しく鞭撻を加ふと云ふに非ずや、天才にして嚴格の鞭撻を受け而して後始めて大成すべきなり、然るに當今の教育は大に之と反すること前述の如し、或は教職に在る人にして人格教育を企圖せんとする者少からざるべきも制度其他の事情に制せられて十分に之を行ふを得ざるならん毫も之を意に介せざるもあらん、之を要するに當今は諸學校を通じて人格教育の行はるゝこと甚だ少なきを見る、大學校に至りては殆んど此方面に留意なきかの如き觀あり、英國に於ては中學校大學校共に此に力を注ぐこと人の普く知る所なり、又清朝の英雄會國藩長髮賊を平定するの後清國後來の爲め書を時の皇帝に奉り建議凡そ十則を薦む、帝之を用ひず、國藩閣下に伏して泣くこと三晝夜遂に採用せられずして止めりと、其建議を觀るに其大部は我邦維新の際施行したるものと暗合せり、若し清國皇帝をして國藩の

建議を採用せしめば二十七八年戰役の結果の如何、今日に於ける清朝興亡の如何は未だ俄に知るべからざるなり、而して其内の人物採用法と人物養成法とは我國に於て維新以後行はれたる所と頗る異り、大に人格に重を置き、即人物を採るに當つては科擧の法を廢し獨り死したる試験學科に重きを置かず、大に人物の大小、其精神の正否、識見、勇怯、才略の如何等を參考し又之を教育するには唯文章訓詁等に重きを置かず、其天稟を助長し其偏性を厭へ、以て有用の材を成さしむるに留意すべしと謂ふに有り、此れ我國の有識者間に於て稱へらるゝころと符合するを見れば大に留意熟慮すべきに非ずや、無事太平の日は敢て其要を感ぜずと雖若し今日人物を養成せざれば一朝事有るに當つて之を斷ずるの膽力、密の如き誘惑に遇つて決然之を退くるの概ある人物を缺き、國家の損失大にして臍を嚙むの憾あるべきこと火を見るより明なり、現に日露戰爭終結の際ポーツマウス談判に當つて小村侯爵は議論に於て毎にウイッテに勝れりと雖、ウイッテは毫も屈せず議論の外に於て辣腕を振ひ遂に談判我國の不利を來せりと聞けり、此事果して信ならんか、若し同侯爵に禪的修養あらば其天稟の大膽をして一層大膽ならしめ、議論以外臨機活殺自在の處置を施し以て大に我國家の爲め利ありしならんと吾人をして遺憾措く能はざらしむるが如き其例なり、又北條時宗をして無學禪師の教を受けざらしめば弘安の功蹟を收め得たるや否や俄に之を知るべからず、又楠正成にして關山國師に遭遇し教を受けざりせば果して天下の大勢を挽回し後醍醐天皇の還幸を仰ぐことを得たるや知るべからず、是れ英雄大人に就ての事なれども其以下の人に就ていふも其人格教育を受くると受けざるにより其生涯に大差あるべきこと頗る見易きことなりとす、勿論此教育も畢竟道

徳教育と結合せざれば其用少し、目下既に已に社會の各方面に於て人物缺乏の聲を聞くこと盛なり、而して其缺乏の人物を問へば技術的方面に非ずして信じてことを託し得る人物の得難きに在りと云ふ、彌以て人格教育の急を見る也、而して之が任に當る者の選擇は大に留意せざる可からず、只多く讀み多く學びたるのみの世の所謂學者にては不可にして、學問も必要なれども之と同時に人格高く徳行あり膽力あり年少氣鋭の青年を心服せしめ、之に感化を與ふるの資質を備ふる人を要す是れ當局者の大に苦心すべき所なりとす

熟ら現今我邦の状況を察するに學問智識の方面に於ては大に發達し、稍歐米諸國に伍すべしと雖道徳人格の方面に於ては寧ろ墮落の感あり、是れ至要至重なる道徳的教育及人格教育の學校教育に缺けたるによらずんばならず、然らば之を他に求めんか文部省、學士院之に任すべしに非ず、大多數の寺院等之に任するに足らず、獨り或少數の寺院會堂或は西洋人の關係する或る學校其他個人之を企つるものあるべしと雖、其勢力極めて微々たるものにして、國家の大より見れば殆んど數ふるに足らず、畢竟一般に道徳教育人格教育の大に輕視され、現今我邦に於いては國家として之が遂行の機關を具備せざるものなり、是れ實に現代の一大恨事といふべし、試みに教育者及我國の先覺を以て任ずる人に問はん、我國に於ての道徳教育及人格教育殊に其高等なるものは何れに於て之を行はんとするの成算なるか、外人すら我國の爲に此事を憂慮し「ロンドン、タイムズ」にも之を論ぜしことありしに非ずや、此缺陷は實に明治文明の大缺點といはざる可からず、若し此事にして長く閉却されんか、日本將來の運命知るべからざるなり、明治三年我邦道徳の一本源ともいふべき聖堂の後身

なる大學本校は廢せられ、我學制中徳育の科目は全く棄却せられたりしが、明治八年に至り、小學校に修身科を加ふるに當り學校にては修身の如きは教ふべきものに非ずとの論據を以て之に反對したる人ありしと云へり、今にして思へば實に抱腹絶倒のことなれども當時の時勢は斯る議論を生ぜしめたるが其餘波流れて今日に及べるものと云ふべきか、蓋し我國は維新の際西洋の物質的文明に酔ひ之を輸入するに忙しくして我國固有の事物を顧みるに暇あらず、教育も亦西洋の範によれりと雖、主として其智識的方面を採り之を實施し道徳方面は深く之を採用せず、又我國從來の道徳方面のとも亦極めて輕視せられたり、故に維新後教育を受けたる人は我國の道徳等に暗く、我國の道徳等に通ずる人は要路に用ひられず遂に今日の形勢をなせるなり、其結果我邦の道義廢たれ、唯一に西洋人の曰ふ所を以て標準とし其揚抑を以て物を決するが如き勢をなせり、例へば西洋人日本書を稱讚すれば今迄毫も顧みざりし日本書を賞翫し、西洋人漢字を排すれば之を排せんとし、西洋人武士道を稱讚すれば今更の如く武士道を尊び、西洋人、我或風習を賤めば我も亦之を賤む、此の如くして日本固有の主義主張定まらず今日の如き状態に陥りたるなり、西洋の教育を少しく深く觀察すれば道徳教育人格教育は堅固なる基礎の上に行はるゝ處あれども、從來の觀察者は多く眼茲に及ばず、或は稀に之に及ぶも之を重要視せず從て之を採用せざりしが故に此兩方面の教育の缺陷を致せるなり、從來は所謂過渡の時代にして止を得ざりしとすれば、今に及んでは早く從來の缺陷を考へ之を補ふべきなり、之を爲す如何、大學校に於て學術技藝の教育のみを專にせず、道徳教育人格教育を併せ施すこと是なり

或は云はん此の如きは讀書により之を得べし、特に今日は出版旺にして如何なる修養の書籍と雖容易に之を得べし、何ぞ殊更に學校に於て之を行ふの要あらんやと、是一應理あるが如き論にして書籍雜誌等は大に功益をなすべしと雖初めて教育を受くる者に對しては其功薄し、天才にして意志強き人は獨修を以て略其目的を達するを得べし、然れども日常の學問技藝に於けるも獨修は精力と時間を費すこと多く且誤解に陥り易し、即獨修は目的を達すること難く、且學び得たるところ之を師に學び得たるところに若かず、故に多くの人は其目的を達せざる可し、古語に曰はずや、盡く書を信ぜば書無きに若かずと、而して其書の正邪を辨じ學生をして書中の取捨撰擇を誤らざらしむるは師の職務にして其必要にして尊き所以も亦茲に存するに非ずや、此二方面に於ては殊に然り、孔子すら三十にして初めて自立せられしに非ずや、況んや其他に於てをや、故に古來東西共に多くは師ありて此兩教育を施せり、然るに今の我國に限り、人に依らず只書籍にのみ委せんとするは甚だ解し難きことと云ふべし

又或は曰はん此兩教育の如きは中學校に於て成就するに非ずや、現に獨逸の如きは然りと、嗚呼此人の如きは我國中學校の實狀を詳にせざるものなり、或は學校に於ては大に之に意を用ひ稍見るべきものあるべしと雖多くは斯る方面に留意するに暇あらず、汲々として唯一人も多く高等の學校に入る試験及第者を出さんとして試験科目の研究に日も亦足らず、倫理科の如きは師弟共に力を注がざるところなり、假りに一步を譲りて之に力を注ぐとするも今は既に大に道德的修養を受けたる大家は多く凋落し之に代れる人多くは道德的修養に深からず、又或は自身さへ飯趣尊信するところ

無き人なるが故に、生徒をして尊信の念を生ぜしむるに足らざるの狀況にて、概して當今の倫理學教授は甚だ感化薄きを覺ゆ、且今後、其倫理道德の教師たる人を養成するは何れに於てせんとするか嗚呼是れ思はざるの甚しき論と云ふ可し

又或は曰はん道德修養の爲めには教育勅語あり、一意之を奉體せば萬事了せり、復他の道德の教育を借り來るを要せんやと、是屢先覺者と云ふべき人の稱ふる議論にして大に理あるが如しと雖、退いて考ふれば是決して勅語の御趣意に協ひたるものに非るべし、勅語の奉體すべきは素よりなれども、唯大綱を御示あるに止まり、設へ朝夕之を拜讀奉りたりとも未だ以て道德教育のこと終れりとなす可からず、明治二十三年以來養成されたる人々にして其前のものに比し殊に道德の高さを聞かず、寧ろ近來教育を受けたるもの、道德漸々墮落の傾あるを見る、是れ勅語出て大方針は略定まるも之を輔佐し奉るべき德育の閑却せられたるによる、故に御趣意のある所を體し奉り古來の聖人大人の教訓にも徴し丁寧親切に教へざる可からず、又若し人心簡單なる大綱を教ゆるのみにして能く道德の蘊奥に達し得れば古人焉んぞ好んで繁瑣なる教を設けんや、其要あればこそ或は縦説横説或は高く或は低く或は事實により或は比喻により或は理論により或は感情に訴へ丁寧親切に之を説明し、且自ら實踐躬行して範を示せしに非ずや、然るも尙未だ人の道に赴くこと少き歎ありしに非ずや、孔子は十有五にして學に志し絶えず修養し七十にして始めて理想の心域に達したるに非ずや、彼の大燈國師は二十四にして大應國師の允可を得、以後五條橋下にあつて悟後の修養をなすこと二十年にして初めて帝師たりしに非ずや、正受老人は十三にして道に志し十六にして見性し十九歳より無難

禪師の嚴烈なる教育を蒙ること十餘年、爾後世縁を杜絶し自ら修養すること四十年にして後の五六年初めて居常道に協へるを覺えたりといふに非ずや、然るに稀に勅語を拜聽するに止り之を以て道徳を完全の域に進め完全なる人格を造らんとするは頗る難事と云ふべし、勿論如何なる方法によるも人々をして皆悉く孔子の心域釋迦達摩の境界に達せしむるは得て望む可からず、況んや數年の間に於ておや、然れども其端緒を教へ其重要なるを曉らしめば人々學校を出ずるの後自身工夫向上に努力し或は自ら師を求めて彌修養すべし、之に反して今の中學校程度の德育に止め向上の一路あることおも曉らしめずんば終生意を此方面に傾けずして止むもの多からん、故に大學令第一條に學術技藝を教授し其蘊奥を考究すると云ふの外、道徳を教へ人格を成育するの意を加へ、大學は全國學術技藝の中心たると同時に、正しき道徳の標準高き人格の模範たるを期せんこと切望に堪えざるなり、是れ實に大事業にして其困難なるは素よりなれども、一日後れば一日の悔を遺すべければ先之を實施し漸を以て完成の域に達せしむべし

余謗劣を顧みず斯の如き文を草するものは是れ實に國家の危急存亡に關する大事なるを思へばなり、拙文通じ難かるべしと雖愚意の存する所を察し人を以て事を捨てざれば獨り余の幸なるのみに非ず實に國家の幸なり

281
20

終

